

リスクアセスメント講習会

「現場から学ぶリスクアセスメント」

令和4年10月27日(木)にリスクアセスメント講習会を瀬尻国有林で実施しました。(静岡県・浜松市・林業事業体等 21名参加)

リスクアセスメントは、危険をよみ、災害の芽をつむための効果的な手法で労働災害の防止に効果的であります。林業現場においてもリスクアセスメントに取り組んでいるところではありますが、林業特有の作業現場の複雑性や担当者の経験不足により、その実施は容易ではありません。このため、作業現場に即したリスクアセスメントを実践できるように講習会を開催しました。

当日は、(有)天竜フォレスターの今井社長に講師をお願いして、リスクアセスメントの必要性・実習(現場踏査・個人ワーク・グループワーク)・改善という実践に基づくリスクアセスメントの手法等を丁寧に講義をしてもらいました。

講師の今井さん

【実施プログラム】4グループ(各5人)に分かれて実施

- ① 主旨等の説明
- ② 現地踏査(危険因子の洗い出し及び作業計画に反映)
- ③ 個人ワーク及びグループワーク(発表)
- ④ 意見交換等

リスクアセスメントの必要性

①リスクとアセスメントとは

リスクとは	作業現場の危険性によって生じる、作業者の怪我の「重大さ」と発生する「可能性」のレベル
アセスメントとは	作業現場のリスクを見積り、評価すること

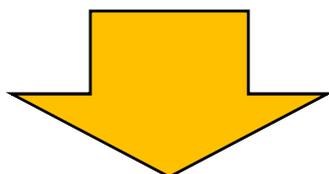
②参加者

	リスクの特定	リスクの見積	措置の検討	措置の決定
チームリーダー	○	○	○	○
チームメンバー	○	○	○	○
プランナー	○	○	○	○
経営管理者	△	△	△	○

○ 必ず参加 △ 必要に応じて参加

③期待される効果

- 作業現場のリスクが明確になる
- リスクを感じる力が養われる
- 安全対策の優先順位が決定出来る
- 属人的な安全対策からチームワークによる安全確保となる
- 残留リスクに対して、「守るべき決め事」の理由が明確になる



皆で見て、話し合っ、決めて、情報を共有する

リスクアセスメント実習

①現地調査

作業範囲

地形

地質

植生

沢

水源

障害物

立木状況

作業基準

アクセス

携帯電波

緊急時対応



②踏査の際に記録を残そう



③現地踏査の整理及びリスク評価 (個人ワーク・グループワーク)



各グループによる現地踏査 (リスク評価の発表)



リスクアセスメントによる作業条件の改善

危険性の洗い出し

①手順

リスクの見積

リスクの優先度の決定

リスク低減措置の検討、決定

リスク低減措置の実行

高

対策検討の優先順位

低

②優先順位

本質的
対策

- 作業方法の変更
- 危険作業の廃止

工学的
対策

- 新たな機械の導入
- 安全装置の装備

管理的
対策

- マニュアルの整備、教育
訓練
- 危険区域の明示

個人的
対策

- 保護具の支給
- 配置転換

③要件

NGワード

- 注意する、気を付ける、意識する

明確化

- 現地で危険因子を見える化する

技能訓練

- 訓練方法 • マニュアル

作業基準

- ルール(安全用具の使用、合図) • 規格(伐採、作業道、機資材)

④活かせる情報を積極的に取得する。

情報の

ヒヤリハット事例

収集と

労働災害事例

周知

パトロールで指摘された事例

作業者の不安

機械の整備状況

リスクアセスメントはコミュニケーションツールのひとつ

皆が同じものを見ていない
皆が同じように見えていない
皆に同じ技能を求める



皆が同じものを見ている
皆が同じように見えている
皆の技能の違いを認める

